

火の見櫓

(題字は 柴谷八尾市長)

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
小角道男
八尾市高美町5-7
TEL(0729)92-0119
FAX(0729)92-7722



猛暑の中心「ひとくち」

平成17年6月14日(火)から規律訓練を実施しました。訓練は午後8時から全15回という厳しいスケジュールで警防課員の指導のもと、選手全員が一丸となって練習を行いました。大会では、練習以上の訓練を披露でき、まさに「心」ひとつでした。選手全員が達成感に包まれ、指導者・選手が次々と握手している姿は厳しかった訓練の表れであり、あの光景は今でも目に焼きついています。

嶋野小隊長の話

入梅と同時に始まった規律訓練、夜の練習とはいえ背中を汗が流れ落ちるのが分かるほど蒸し暑い日が続きました。初めは号令での予令と動令の間隔がうまくとれず、また、小隊訓練では動作に号令をかけるタイミングに苦労しました。しかし警防課員の指導により、日を重ねるごとに一つ一つの事が各自できるようになり、各個訓練に続き、小隊訓練も徐々にまとまり連日通しでの練習を繰り返して行いました。当日は、円陣を組んでグラウンド中に響き渡る掛け声で不安や緊張から解き放たれ、今までに無かった一体感を覚えたのは私だけではなかったと思います。大観衆の中、大きな声を出して規律訓練をやり遂げた事はこれからの団活動で必ず活かされるはずです。警防課の方々そして団員の皆様、最後まで本当にありがとうございました。



☆☆☆☆☆
任 命 式
☆☆☆☆☆

平成17年4月1日、消防団員の任命式が挙行され、19名の新団員が誕生しました。
若き精鋭の抱負等を伺いました。

- ①職業
- ②趣味
- ③抱負



中家一真(龍華)
①テント・シート加工設計
②釣り・カラオケ
③八尾市消防団に入団した限りは、八尾市民の安全を守るために、頑張つて行きたいと思ひます。



今井隆(八尾)
①自営業
②スキー
③消防団員として精一杯やっつけていきたいです。



川崎孝司(八尾)
①会社員
②スポーツ鑑賞
③少しでも地域住民のお役に立てるように頑張つて行きたいと思ひます。



吉川明憲(久宝寺)
①大工
②ソフトボール
③少しでも多くの活動に参加して、先輩方々の足を引つ張らぬように一生懸命頑張ります。



橋本新吾(曙川)
①会社員
②釣り
③地域社会、住民に貢献できるようにがんばります。



杉田昌己(曙川)
①自営業
②ゴルフ
③生まれ育つた地域に少しでも貢献できればと思ひています。



南野直紀(大正)
①公務員
②スポーツ(野球)
③日頃から確実・迅速な技術を身に付け、又、地域の防災意識が向上する様、頑張つて行きたいと思ひます。



橋田滋基(龍華)
①会社員
②サッカー
③八尾市民のために消防活動がんばります。



林 晋弘(山本)
①造園・土木
②音楽鑑賞
③消防団員の一人として、一生懸命頑張ります。



田中裕己(山本)
①例フレックス
②映画鑑賞
③火事が少しでもなくなるような、活動がしたいです。



坂口雄三(高安)
①建設業
②音楽鑑賞
③消防団員として足手まといにならないよう頑張つて行きたいです。



野口裕光(高安)
①造園業
②スポーツ
③火事の現場というのは、緊張した場面の連続と思うので、気を引き締め、諸先輩の足手まといにならないように、周囲の状況を把握し、行動したいと思ひます。

名物団員

今回の名物団員は曙川分団の山口修次方面隊長です。今年で消防団員歴28年になる我が分団の親分です。

なぜ「親分」かと言うと団員歴の長さもさることながら、頭を丸めたその風貌、そしてなにごともひるまずにらみをきかせて堂々と立ち向かう姿などから「親分」を連想してしまうのです。しかし外見の怖さとは反対に、とても面倒見がよく、去年の分団魚釣りツアーでは全員の仕事を作ってきたりと非常に頼れる存在で名実ともに正に「親分」なのです。

仕掛けの件からもわかるように親分の趣味は魚釣りです。数十年通い続けている深日港に、今の時期はアナゴ釣りに出かけるそうです。釣ったアナゴはもちろん親分の手でさばかれ、天ぷらとなり、食卓にあがります。年末には正月用の鯛を伊勢まで釣りに行きます。そして立派な鯛の姿焼きにまで仕上げ、家族にとっても喜ばれているのです。又愛用の釣り場、深日で岬

町の消防団の副団長や地元の漁師さんとも親しくなり、そういった仲間と新鮮な魚を酒の肴にして一杯やるのが何より楽しくストレス解消になっているようです。

そんな親分ですが釣りばかりしているわけではありません。消防団以外にも町内会の副区長として地域活動に貢献されているのです。町内会の様々な行事の計画、実施とここでも親分の力を存分に発揮されています。

本業(紙製品の加工販売)、町内会の副区長、消防団員ととても忙しい毎日ですが、どこからも頼りにされる我が親分、釣りを楽しみ、体に気をつけてこれからも頑張ってください。

曙川分団 吉村



長坂秀和(志紀)
①会社役員
②ゴルフ
③地域の皆様の為に、先輩団員のご指導のもとに一致団結し、消防使命を達成する所存です。



清水貴之(志紀)
①建設業
②ゴルフ
③消防団と言う、長年受け継がれてきた活動に参加出来る事に大変うれしく思い、先輩達の名に恥じないようにがんばり、地域の防災に努めて行きたいと思っています。



藤田隆司(志紀)
①葬儀業
②旅行
③今まで地元へ貢献すると言うことがなかったため、できるかぎりがんばって出動したいと思っております。



楠 一郎(志紀)
①会社役員
②スノーボード
③自分の生まれ育った地域のためにも一生懸命頑張りたいと思います。



中辻勝俊(志紀)
①自営業
②スポーツ鑑賞
③先輩団員の足を引っ張らないように頑張ります。

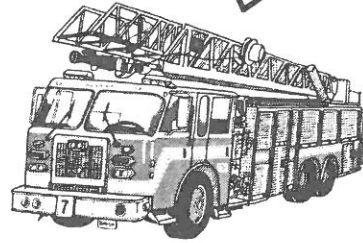


辻村 学(志紀)
①自動車販売
②スノーボード
③田井中の町を守る為良い先輩方の指導のもと精一杯頑張ります。



宮平誠二(志紀)
①会社役員
②スノーボード・読書
③消防団員として早く一人前になり、地域防災に貢献できるよう頑張りたいと思います。

分団へのミッション



4月16日、杉田茂信前方面隊長の送別会を信貴山の十三屋で開きました。杉田氏は、昭和52年4月に入団されてから28年間曙川分団で活躍されました。奥田分団長より長年の活動を感謝する言葉と共に花束の贈呈と記念品の授与がありました。

杉田前方面隊長からは「入団したての頃は何もわからず右往左往していたが家族や団員に支えられ何とか今迄やってこられた。そして最後には本部に席を置くことによつて日常とは違う分野の人と知り合えて人間的にも成長した。28年間の分団活動は非常に有意義なものであった。」というお言葉を頂きました。

続いて今年度入団された息子の杉田昌己さんからは「小さい頃から親父の背中を見て育ったせいが入団に際しては、さほど抵抗は無かった。ただ、今の社会を取り巻く環境では、自分の事で精一杯の人が多く、ボランティアには参加しづらい環境ではある。けれども利害関係無しに世代の違う人や地域の人達と接することができる

山口・杉田 新旧方面隊長



吉村

ランテアは素晴らしいものである。消防団に入団していろいろな人と知り合い、又経験を積んでこれからの自身の仕事や人間形成に役立てていきたい。」と心強い抱負を述べてくれました。

又、杉田前方面隊長は広報部会発足時のメンバーの一人でもありその際、紙面作りには大変苦労されたようです。続く広報部員には苦労させたくないと言った記事の提案を下さる、広報部員としてはとても助かり、ありがたい思いでした。日頃のモットーは「逆境はチャンス」で、残った我々はその言葉通りいつも前向きな姿勢を見習い、曙川分団の発展に努力していきたいと思えます。

本当に長い間ありがとうございました。



7月23日・24日団員家族も一緒に総勢36名で有馬温泉と神戸方面へ親睦旅行に出かけました。昼過ぎにバスで出発し、有馬グランドホテルに到着すると子供連れの者は、早速ホテルのプールに飛び込み、他の者は温泉街を散策し、お土産に炭酸せんべいを購入したりとそれぞれの時間を楽しみました。

夜の懇親会では、岩崎副分団長より、日頃の団活動に協力していただき、豪華料理とお酒を頂きました。その後、得意のカラオケで大いに盛り上がり、1日目の夜は更けました。

2日目は、六甲牧場で羊や馬と触れ合ったり、チーズ工場を見学して、昼食は、オリエンタルホテル最上階のレストランで神戸の景観を見ながらフランス料理を味わいました。昼食後は近くの異人館を散策し、その後、帰路に着きました。

子供たちもまた行きたいと大変喜び、十分な家族サービスができ、一層、家族間の親睦も深まり、有意義な2日間でした。

向井

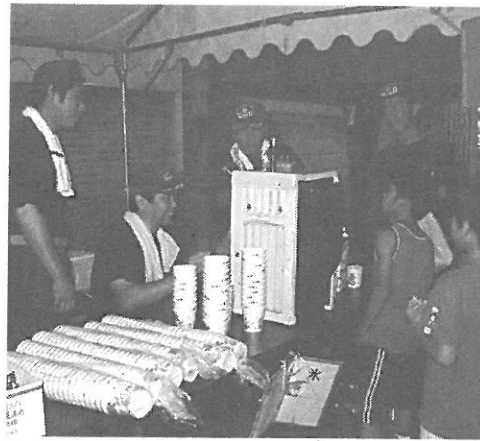
木の本分隊は、地元の行事に参加し、7月9日に北木の本・8月6日に木の本それぞれの子供会・育成会の方々による模擬店のお手伝いをさせていただきました。

両日ともそれまでの雨がうそのように止んだ間に行われ、たくさんの方が集まられ大盛況でした。

我々の担当させていただいたウインナーとかき氷の店は、早々に売切れるなど、さすがに男前の多い木の本分隊??という感じでした。奥様方からは



「来年もよろしくお願いします。」子供たちからは「おっちゃん、大きくなったら消防団に入るわ!」と言う男の子だけでなく女の子もおり、うれしい限りでした。これからも、色々な行事に参加させて頂きより一層地域に密着していきたいと、隊員一同思った両日でした。



龍華分団は、亀井地区福祉委員会主催による毎年恒例8月第一土曜日の納涼盆踊り大会に、朝早くからの舞台設営の手伝いから当日街頭交通整理・自転車置き場の整



去る、7月18日・19日、久宝寺地区による、式内社許麻神社の夏祭りが行われました。

久宝寺には、御輿と布団太鼓が大人と子供用各一つずつあります。

ここ数年、サラリーマン化が進

理、踊りの参加(音頭取りも来ていただいて)、又、模擬店(やきそば・たこ焼き・焼き鳥)の手伝い、翌日会場設備の撤去、と二日間に渡り朝早くから夜遅くまで一年に一度地域の方々と協力し夏の夜を楽しんで頂くことがなっています。

我々龍華分団では、他に地域の行事(亀井地区福祉委員会のグラウンドゴルフ春秋年二回)にも積極的に参加し、地域の多くの方々が集まる行事には参加・協力し地域に密着した消防団を目指しています。又、第四日曜日にポンプ操法や分団長会議の報告等定期的に集まり団員相互のコミュニケーションを図っております。それから団員の家族も交えた親睦会も計画中です。

辻村



み、担ぎ手が少なくなり、宮出しができないと言ったことを聞き、私達消防団は、三年ほど前から警備を断わり、御輿を担ぐことにしました。久宝寺の御輿は、珍しい六角御輿であるため、ぜひとも消防団で宮出しをしようと、一致団結をし、祭りを堪能しました。

祭りの最大の見所は、顕証寺の交差点で、布団太鼓の周りを御輿が駆け回り、見物客からは、歓声と拍手が沸きあがり、その盛り上がるのさま、宮入をして祭りは終わります。

御輿を担ぐようになって、以前にも増して、団結力が強くなったように思われます。

志村

恩智川水防訓練

5月28日(土)、東大阪市花園中央公園の治水緑地にて恩智川水防訓練が行われました。南は柏原市界から北は大東市界までを管轄する八尾市と東大阪市両市の消防団員80名が訓練に参加し、河川氾濫を想定した水防工法をそれぞれに実施しました。当八尾市を代表致しまして、南高安分団より20名の団員が「せき板工法」を行いました。

「せき板工法」とは、河川堤防が沈下したり、増水が激しく流水が堤防を越えそうになっている時に擁壁を作る手段です。水防に携わった事のある方ならご存知かと思いますが、概略を説明致しますと、堤防天端に二列に杭を打ち、内側にせき板を積み、さらに内側に土のうを積み重ねるといふ工法です。一般に木材の得やすい都市部周辺で適用される場合が多く、河川の越水を防ぐという目的で用いられる応急嵩上げ工法の一つです。

訓練当日は5月というのにとっても蒸し暑く初夏の日差しを受けながら、全員での土のう作りから始まり、手分けして杭の打ち込み↓板張り↓杭と板をばん

せんで止める↓土のうを積む・・・など全工程を全員汗だくになりながら、実践を想定するかのよう順序よく確実に行いました。

実は、当分団では近年、水災害での出動が際立って多くなってきたのです。この南高安地域は山手ということもあり、梅雨期や台風シーズンの大雨による土砂崩れや、山からの急な流水による河川の氾濫などの災害が起りやすい地形となっており、昨年も住民からの通報で、大雨の中で土のう積みや、警戒にあたった経緯もあり、全団員に水防への意識の高まりが浸透してきています。

南高安分団 馬谷



幹部視察研修

去る6月16日、分団長就任後、初めて団幹部視察研修で、関西国際空港第2期工事現場へ行ってきました。空港近くで泉佐野市消防本部の次長さんがバスに同乗、空港消防の概要説明を受け、さらに「第2期工事現場見学ホール」の展望スポットで工事状況を間近にして、模型や映像で見識を深めました。

二〇〇七年の新滑走路供用に向け2期用地造成工事は、環境保全・環境監視を徹底し、地盤改良・護岸築造・埋立造成と進み、第2次揚土工事は最終段階へ突入しています。特にこの工事ではGPS(全地球測位システム)を駆使して埋立船を正確に誘導、ブルドーザー等に施行位置と高さ情報を提供、さらには海上での作業船に位置情報提供や運行指導を行い精度の高い工事と安全確保に努めています。

消防業務は、泉佐野市消防本部の空港分署がターミナルビルや一般施設を、関空会社が空港消防所及び分所を配し、滑走路や誘導路、駐車場等を管轄しています。事故発生時2分30秒以内に到着

可能な距離に署所を配置し、なかでも関空消防所が所有するオーストリア製化学消防車は圧巻で、一般消防車の約3倍の放水能力を持ち、滑走する航空機に追従走行し消火活動を可能にする機動力を持っています。さらに新しい四〇〇メートル滑走路供用開始に伴い消防力が増強されるのは言うまでもありません。

先進技術を駆使し、高精度な消防車・機械類も熟達した隊員が操作して機能するのであって、言い換えれば隊員の日々の訓練で成り立つ関西国際空港と言える。

われわれ消防団員もあらゆる災害を想定して日々研鑽することと地域防災に対する責任と決意を再認識して空港を後にしました。

山本分団 久田



中河内初任科・幹部科教養

5月22日(日)大阪府立消防学校にて平成17年度の初任科・幹部科教養の団員研修が行われました。当日は朝から曇り空の中、訓練が実施され、まず消防団の組織や歴史などの講義が行われ、その後初任科は消防団員としての規律、基礎訓練を研修しました。新団員は緊張の中で整列や行進等に初めのうちは、ぎこちない感じでしたが、訓練が進むにつれて次第にまとまりが保てる様になり心強さを感じました。



私の受講した幹部科では今まで号令を受ける側から初めて号令をかけました。予令・動令の難しさを実感しました。今後、この経験を活かし消防団活動に励みたいと思います。

龍華分団 村井



普通救命講習Ⅱ講習会

7月3日雨の降りしきる中、恩智会館において普通救命講習Ⅱの講習会が行われました。当日、中南部分隊は恩智神社の草刈があり、北部分隊は教興寺地区の夏祭りがありました。が、ほぼ全員が参加し熱心に受講していました。

今回は心肺蘇生法による応急手当などの講義・実技に続きAEDを用いた手当ての講義・実

技を教えていただきました。AEDとは心筋梗塞や不整脈などにより心室細動になった心臓に除細動(電気ショック)を与えることで、心室筋の電気信号を整え、心臓機能を回復させることのできる機器のことです。



後日TVのニュースでマラソン大会中に倒れたランナーがAEDにより一命を取り留めたことや愛知地球博の会場や全国の空港にもAEDが設置され使用されているということが取り上げられていました。

今後身近な場所にもAEDの早期設置を望みたいものです。

南高安分団 畑中喜

八消会ゴルフコンペ

平成17年6月9日(木)、消防団厚生事業の一環として、第22回八消会ゴルフコンペが、法隆寺カントリー倶楽部において、小角団長以下48名が参加して行われました。

当日は、天候にも恵まれ、いいスコアーを目指し、スタートしましたが、やはりゴルフは上がつてなんぼのスポーツでした。

久宝寺分団 志村

- 上位の結果は、次のとおりです。
- 優勝 南高安分団 森山 敏
 - 準優勝 大正分団 木田 宗利
 - 3位 山本分団 西村 公伸



「規律訓練」を振り返って

去る8月7日(日)市立八尾中学校で行われた「中河内地区支部消防総合訓練」は、八尾・東大阪・柏原の3市消防団の参加で開催され一番手は八尾市消防団による「規律訓練」二番手は東大阪市消防団による「小型ポンプ操法」最後は柏原市消防団による「自動車ポンプ操法」の順に行われました。大正・曙川・久宝寺・龍華の各分団より選ばれた精鋭31名は、一番手の「規律訓練」に臨み、6月から8月にかけて猛練習の成果をいかななく発揮しました。規律訓練の内容は、先ず円陣を組んで一致団結した後会場入りし、小隊編成を行い3分隊に分かれての「停止間による各個訓練」そして小隊に戻って訓練場をさまざまな隊形で一周する「行進間による小隊訓練」というものでした。



出来るか」と変化していきました。そして本番で円陣を組み掛け声を出した時の「しびれる」ような感覚、本番後の「達成感」そして警防課の石田さんと鳴野小隊長の抱擁を見た時の「熱くなる」気持ちには、久しく感じたことのないものでした。

これも熱心に指導して下さった警防課の方々、そして温かく見守って下さった団長及び副団長・方面隊長そして各分団長・団員の皆様のおかげであり、この紙面をお借り致しまして、厚く御礼申し上げます。

大正分団 松本・内山

もしもの時どうしますか？

皆様の周りや出先でももしも、火事や事故と遭遇したら、あなたならどうしますか？ほとんどの人が消防や警察に通報すると思いますが、冷静にまた、出先の知らない土地で正確に通報できる方は少ないと思います。しかし、あなたの通報で火事による被害を少なくしたり、負傷者の命が救えることができます。

もしもの時に備えて通報の仕方などの確認をしてみてくださいいかがですか？

電話機の近くに自分の住所・名前・目標物などの必要な情報を書いて貼っておくと、もしもの時に対応できます。また、近所に大声で知らせ、通報をお願いすることもよいでしょう。

119番通報は 落ち着いて正確に！



● 広報部会名簿 ●

| | | |
|------|-------|-------|
| 委員長 | 久宝寺分団 | 志村武 |
| 副委員長 | 曙川分団 | 吉村孝司 |
| | 山本分団 | 川上剛弘 |
| 委員 | 久宝寺分団 | 岡井淳治 |
| | 西郡分団 | 小笠原志一 |
| | 八尾分団 | 嶋林正雄 |
| | 龍華分団 | 川崎弘純 |
| | 大正分団 | 内山芳彦 |
| | 曙川分団 | 松本徹 |
| | 南高安分団 | 馬谷有洋 |
| | 高安分団 | 奥中喜幸 |
| | 山本分団 | 山田文雄 |
| | 志紀分団 | 山村友久 |
| | | 酒井義久 |
| | | 山科雅忠 |
| | | 阪本健一 |

編集後記

「火の見櫓」第16号が、皆様のおかげをもちまして、無事発刊することが出来ました。いろいろ大変だったと思いますが、次号もよろしくご協力お願いします。

志村